

# ◆ さとのそら栽培暦 ◆

時期	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ	出芽期						分けつ始			分けつ期						茎立期			出穂期			成熟期					
栽培管理	← 播種 →			← 麦踏み →									← 追肥 →			← 赤かび病防除 →			← 収穫・乾燥・調製 →								
生育ステージの判定・目安・予測	<b>◆ 生育ステージの判定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>出芽期: 出芽可能粒数の<b>40~50%</b>が出芽した日</li> <li>茎立期: 主稈長が<b>2cm</b>になった日</li> <li>出穂期: 有効茎の<b>40~50%</b>が出穂した日</li> <li>成熟期: 穂首が黄化し、穂軸や粒からは緑が抜け、粒には爪のあとがつき、ほぼロウくらいの硬さになった日</li> </ul>						<b>◆ 生育ステージの目安</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>出芽期: 県央(水戸)は<b>11月19日頃</b>、県南(龍ヶ崎)は<b>11月14日頃</b></li> <li>茎立期: 出芽期から日平均気温(0℃以上)の和で<b>578.8℃</b>の日</li> <li>出穂期: 県央(水戸)は<b>4月23日頃</b>、県南(龍ヶ崎)は<b>4月17日頃</b></li> <li>成熟期: 県央(水戸)は<b>6月10日頃</b>、県南(龍ヶ崎)は<b>6月2日頃</b></li> <li>出芽期、出穂期、成熟期は<b>11月7日頃</b>播種の平成24年~28年産の平均値、農業研究所調べ</li> </ul>						<b>◆ 茎立期(追肥時期)と出穂期(赤かび病防除時期)の予測</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>茎立期は主稈長、出穂期は主稈幼穂長を測定し、高い精度で予測できます。</li> <li>実際の予測は、表計算用ソフトのファイル上で行います。 (農業研究所HPからダウンロード)</li> </ul>														

## 高品質安定生産のポイント(収量500kg/10a・粗タンパク質含量9.7~11.3%・1等)

<p><b>① 圃場の準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 排水対策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>湿害を回避するため、<b>暗渠・明渠・弾丸暗渠</b>の施工</li> </ul> </li> <li>◆ 土壌改良                     <ul style="list-style-type: none"> <li>pH(KCL)<b>5.5~6.0</b>になるように<b>石灰資材等</b>を施用します。</li> <li>リン酸・カリは県の土壌改善基準を満たすように施用します。</li> <li>黒ボク土等の火山灰土壌は、リン酸の不足に注意します。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>④ 麦踏み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 3葉期から茎立期前まで年内<b>1回</b>、<b>年明け2回</b>を目標に行いましょう。</li> <li>◆ 土が乾いた天気の良い日に実施します。</li> <li>◆ 前回の麦踏みから<b>10日</b>以上の間隔をあけます。</li> <li>◆ 耐寒性の向上、凍上害の防止、分けつの促進、耐倒伏性の向上が期待できます。</li> <li>◆ 茎立期以降の麦踏みは、減収や遅れ穂を誘発するので行いません。</li> </ul>	<p><b>⑥ 赤かび病防除</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 薬剤防除の適期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>開花始期~開花期(<b>出穂期7~10日後頃</b>)</li> <li>1回目の薬剤散布後、発病の好適条件が続く場合、<b>7~10日後</b>に2回目の散布を行いましょう。</li> </ul> </li> <li>◆ 農産物検査時の赤かび粒の混入限度は0.0%に設定されており、それを超えると規格外となるため、注意しましょう。</li> </ul>	<p><b>⑧ 適期収穫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コンバイン収穫期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>成熟期の<b>2~3日</b>後から<b>5日間</b></li> <li>穀粒<b>水分30%以下</b></li> </ul> </li> <li>◆ コムギ適期収穫チャート(農林61号用)を参照し、総合的に判断しましょう。</li> <li>◆ 降雨後や早朝は、穀粒水分が高くなるため収穫を避けましょう。</li> </ul>										
<p><b>② 基肥</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 基本は窒素量<b>6~7kg/10a</b></li> <li>◆ 稲わらすき込みの場合は、1~2kg/10a増量します。</li> <li>◆ 地力が高すぎなければ、9~10kg/10aまで増量できますが、粗タンパク質含量の超過や硝子粒の発生による等級低下に注意しましょう。</li> </ul>	<p><b>⑤ 追肥</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 茎立期生育量(草丈(cm)×茎数(本/m<sup>2</sup>))に応じた追肥法                     <ul style="list-style-type: none"> <li>生育不足の場合(生育量40,000以下) 茎立期に<b>窒素量2~4kg/10a追肥</b></li> <li>適正な生育の場合(生育量40,000~60,000) 出穂15日前に<b>窒素量2~4kg/10a追肥</b></li> <li>生育過剰な場合(生育量60,000以上) <b>無追肥</b></li> </ul> </li> <li>◆ 火山灰土や黒泥土など土壌からの供給窒素量が多くなるのが予想される場合は、生育量によらず、原則無追肥としましょう。</li> </ul>	<p><b>⑦ そば混入防止</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 除草剤の散布                     <ul style="list-style-type: none"> <li>アクチノール乳剤は、<b>穂ばらみ期</b>までに散布</li> <li>バサグラン液剤(ナトリウム塩)及びMCPソーダ塩は、<b>収穫45日前</b>までに散布</li> <li>残ったそばは、収穫までに<b>手取り</b>で完全に除去</li> </ul> </li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>除草剤名</th> <th>薬剤量</th> <th>水量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクチノール乳剤</td> <td rowspan="2">100~200ml/10a</td> <td rowspan="2">70~100L/10a</td> </tr> <tr> <td>バサグラン液剤(ナトリウム塩)</td> </tr> <tr> <td>MCPソーダ塩</td> <td>200g~300g/10a</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">平成29年9月7日現在</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ そばはアレルギーの原因となるので、<b>1粒</b>でも混じると<b>販売</b>できません。</li> <li>◆ 原則、そば後の圃場には麦を作付しないようにしましょう。</li> </ul>	除草剤名	薬剤量	水量	アクチノール乳剤	100~200ml/10a	70~100L/10a	バサグラン液剤(ナトリウム塩)	MCPソーダ塩	200g~300g/10a		<p><b>⑨ 乾燥・調製</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 最終仕上げ水分は<b>11.5%以下</b></li> <li>◆ 戻り水分を考慮して基準より低めに乾燥</li> <li>◆ 乾燥穀温は<b>40℃以下</b></li> <li>◆ 調製篩目は<b>2.3mm</b>を使用</li> <li>◆ 高水分麦の一時貯留はムレ麦、熱損粒、異臭麦、発芽による低アミロ麦等の変質で品質が低下するため、直ちに適切な乾燥を行いましょう。</li> <li>◆ 高水分麦を高温で上げると退色して白っぽくなる可能性があるため、送風温度に注意しましょう。</li> </ul>
除草剤名	薬剤量	水量											
アクチノール乳剤	100~200ml/10a	70~100L/10a											
バサグラン液剤(ナトリウム塩)													
MCPソーダ塩	200g~300g/10a												
<p><b>③ 播種</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 播種期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>適期は<b>11月上旬~中旬</b>、その範囲で、<b>県央は早め</b>、<b>県南・県西は遅め</b></li> <li>早限は、県央は10月下旬、県南・県西は11月上旬</li> </ul> </li> <li>◆ 播種量                     <ul style="list-style-type: none"> <li>適期播種量は、<b>8kg/10a</b> 播種深度は、<b>2~3cm</b></li> <li>12月以降の遅播き、土壌過湿の場合は、<b>30~50%増量</b></li> </ul> </li> <li>◆ 種子は、<b>毎年必ず更新し、種子消毒</b>をしっかりと行いましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 農薬の使用は、ラベルの記載内容及び最新の登録内容を確認の上、使用してください。</li> <li>◆ 農薬の使用基準を守り、ドリフトには十分に注意してください。</li> </ul>												